

仕事について思う

春寒の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

今月、50才になりました。同級生の会社勤めの人の多くは、定年までの第4コーナーのような感じです。

私も鈍い自分の成長速度と実現したい事への道のりの遠さのギャップに悩む毎日です。



代表取締役社長 吉田治伸

さて、標題ですが、私は、仕事を行っている人は、「職業として仕事をしている人」と「好きで仕事をしている人」に大別できるのではないかと考えています。

先日、同年輩のそこそこの役職についている先生と話す機会がありました。

PTAや生徒の事を「勘弁してほしい」的に話し、いろいろな批判をしていました。

一転、家族や自分の趣味の話になると目をキラキラさせていました。彼にとって、仕事はできるだけ「楽」にやって目的は「給料」もらう事のようにです。こんな先生に自分の子はできれば担任をしてもらいたくないと思いました。

逆の先生もいます。今春、高校を卒業した娘の担任です。日頃から、生徒思いの感じがしていました。卒業式の日、生徒からプレゼントされたのは、受験の合間に作った、写真やお礼の寄せ書きのアルバムです。泣いていたそうです。

これは、運が良く良いクラスを受け持ったのではなく、1年間の「思い」の結果であろうと思います。

幸福な人生をおくるうえで、私が思う事は、

- ・ 好きになる事ができる仕事につき、好きになるよう努力できる事。
- ・ 楽しそうに仕事を行い、関わった人がその仕事に対して感謝や尊敬してもらえる事。

まだまだ、寒い日が続きますが健康にご留意下さい。